

第9回ひろしま「山の日」県民の集い
写真で見る、北広島町（八幡高原）会場

平成22年6月14日

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会

■ 北広島町会場、オープニングセレモニー

オープニングセレモニー、開会の挨拶をする林実行委員長。
この日、新緑の八幡高原はさわやかな青空が広がった。



町広島県環境部長



竹下北広島町長



平成 22 年度広島県緑化功労者表彰を受けるカキツバタの里づくり実行委員会代表の川内さん



ひろしま「山の日」宣言をする八幡小学校6年の中村穂乃花さん。

それを応援する八幡子ども園全園児8人。感動的な第9回のひろしま「山の日」宣言だった。

仕事上の若い警察官も感激したのか、思わず拍手を贈っていた。



オープニングセレモニーには約300人が参加した。

ナラの木や東屋や周辺の施設を生かし、二日間だけだが人と情報と高原の風が心地よく行きかう広場となった。「人が集まり、市が立ち、そしてまちができていく」というまちづくりの原点が、小さなイベントの運営や設えに重なる。参加者や北広島町や八幡の人に、ひろしま「山の日」県民の集いは、どう受け止められたのだろうか。



八幡小学校全児童 9 人が、「故郷広島」の山」の合唱に参加した。指揮する女性も現れステージも会場も一体になった、参加者一人一人が声をあわせた大合唱となった。



自然派アナウンサー
山原玲子さん。前日から現地に入り取材、
実感のある司会進行が好評だった。



ひろしま人と樹の会・畝本さんの当日のアイデアと行動力で実現。国際生物多様性年にふさわしいメンバーでの安全祈願。広島の SATOYAMA から、「どんぐりコロコロ」の掛け声が世界へ木霊した。

- きっかけづくりを狙いにした山のグラウンドワーク（手入れ）には 160 人が参加。
 班長ミーティング（30 人）から、山の手入れの様子までを写真で綴る。
 今回は初心者も多く森林組合の協力を得ながら、森づくり安全活動の「ランク 3」以上の認定者が
 3 人参加し、作業等の班長を努めた。
 山の手入れのプログラムは、何度経験しても
 道具を片付けるまで緊張が続く。



八幡高原の魅力か、カキツバタが見ごろであったためか、
企画の成果か。例年に比べ女性の姿が目立った。





△手入れの前の里山

山の手入れの前と後。
上は1週間前の風景。



●自然再生事業が始まっている霧ヶ谷湿原観察会。

八幡湿原自然再生協議会会長である中越教授（広島大学大学院）の案内で、自然の力と人間の情熱と技術により、ゆっくりと再生が進む霧ヶ谷湿原に参加者の多くが感動したようだ。国際生物多様性年にふさわしいプログラムになったように思う。



- 森のネイチャーゲームー「目かくしいもむし」。目を閉じ、高原の草に触れ、匂いをかぎ、音を聞いた。ゲームに参加した二つの家族 6 人は、高原の自然とインタープリターに応援され、素直な心で自然と語り合った。



▽カキツバタの里（休耕田へ約 20 万本）

▽牧野博士が詠んだ八幡のカキツバタの歌碑。



- 八幡高原は標高 800 メートル、青森と似た気候風土といわれている。

世界的な植物学者・牧野富太郎を魅了した八幡のカキツバタは、ちょうど見ごろであった。

- 会場には展示ブースも設けられ、小さな「市」が立った。

閉会式の締めくくりには、林実行委員長から次回の会場（10 会場）へ手ノコが手渡された。



△刃物の町・兵庫県三木市から、切れの良い手ノコ「SAMURAI」（神沢精工）がやってきた。



△世界に誇るハイテク技術のマツダのエコカーは、エコ仕様の芸北の古民家の前に展示。



△登山講座の終了式



△大和重工の鋳物製品ダッチオーブンや「かまどん」には、中国山地のたたら製鉄の DNA が流れている。



△手ノコを受け取った、北広島町会場代表の近藤さん。



第 10 回ひろしま「山の日」県民の集いは、参加するすべての広島県下の市町の会場がメイン会場になるひろしま方式で行う。各会場の代表者に、シンボルである手ノコを渡し第 9 回が終わり、第 10 回がスタートした。行事を終え、林実行委員長らに笑顔がこぼれた。さあ、来年は、国際森林年でもある。



約 1 ヶ月前の山の手入れ場所の風景



- 編集日：平成 22 年 6 月 14 日（月）
- 撮影：神崎博文（神崎写真事務所）、畝崎辰登（実行委員会事務局）
- 編集：ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
 広島市中区小町 2-28-703 株式会社パブリックス内 〒730-0041
 TEL082-909-7662 FAX082-248-3586

この写真集は、現在手元にある写真などを、取り急ぎ速報として編集したものです。
 北広島会場では、この他、登山道整備、前夜祭、登山講座、ヤマネの棲む森と湿原の観察会のプログラムが行なわれました。これらの内容も加え、追って記録集としてまとめます。